Ⅵ．キャリア形成を軸とした総合人間科の取り組み

第１章

本年度の「キャリア意識の形成」プログラムにおける研究

今　村　敦　司・山　田　　孝
三小田　博　昭・鈴　木　克　彦
杉　本　雅　子・川　田　基　生

１．ＳＳＨとキャリア教育

平成17（2006）年からスーパー・サイエンス・ハイスクール（ＳＳＨ）の取り組みが始まった。６か年の教育課程の中で育成するものとしてサイエンス・リテラシー（科学的思考力）が新たに盛り込まれたが、それと並んで自覚的なキャリア意識の育成が柱として残された。

基本コンセプトは以下の通りである。

多くの人との出会いや多面的な学習から自分の興味・関心が何かを探りながら、大学との連携を活かした豊かな学習環境の中で自己の学習を跡づけ、将来の自分の生き方について、ともに学び合いながら自覚的に選び取る力（自覚的・自立的キャリア意識）を育成する

また、生徒に身につけさせたい力としては以下の５点に集約される。

1. **探求力**
2. **共感力**
3. **多面的な観察力**
4. **人・社会・環境に対する適切な自己認識力**
5. **人や社会への関係形成力、関係調整力**

本校でのキャリア教育が狭義の進路指導だけのものでないことは先述した通りであるが、ＳＳＨの取り組みが始まっても、基本的な理念に変化はない。また、総合人間科が中核を担うという教育課程の構造も変わっていない。本校のサイエンス・リテラシーは自然科学領域のみを対象とするものではなく、理系の進路を取る生徒を育成することだけが目的ではない。あくまでも生徒一人一人が、自分の関心と適性に応じて自分で進路を選び取っていく力をつけることが目的である。

一方、それ以前の取り組みに加わったのが「人や社会との関わり合い」の部分である。学習過程の中で協同的な学習活動の導入がこれまでより強く意識されることとなった。ＳＳＨの指定を受けてから４年になる。ＳＳＨプログラムの中で「キャリア意識の形成」は、主に総合人間科の授業で育てられており、各学年で目標を定め、プログラムを実行し、その評価もそれぞれの学年で行ってきた。昨年度に引き続き、この「キャリア意識の形成」をＳＳＨプログラムの柱の一つとして、ＳＳＨ全体の目標に照らしてどのような力が付いたのかという点について研究を進めることにした。今年度の取り組み内容は、次のような手順で行っている。

⑴今年度の総合人間科の授業目標と、ＳＳＨ全体目標（Ａ　科学に対する知的好奇心　Ｂ　理解し･考え･発表する力　Ｃ　人や社会のために学習内容を活用する力　Ｄ　大学での専門的な研究につながる学びの力　Ｅ　自分の生き方について考える力）を照らし合わせ、合致させる。
⑵今年度の総人の活動の中で、合致させた全体目標の力を付けさせることができるものを選び出す。
⑶今年度実施するプログラムによって､生徒がどのようになれば､その目標が達成されたことになるか（評価規準）を考える。
⑷その目標が達成されたかどうか（評価手段）を、どのようにして測るかを考える。
（例　記述の変化、観察、アンケート、制作物）
⑸評価時期を考え、実行し、分析をする。

以下に各学年の今年度の取り組みを報告する。